

感染症情報 4月24日～5月7日

4月24日から4月30日分

府下小児科200医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1519例(堺市	62例)
②溶連菌感染症	509例(堺市	30例)
③手足口病	252例(堺市	10例)
④咽頭結膜熱	109例(堺市	13例)
⑤突発性発疹	105例(堺市	8例)

府下インフルエンザ定点308医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	468例(堺市	30例)
---------	---------	------

5月1日から5月7日分

府下小児科200医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1274例(堺市	86例)
②溶連菌感染症	421例(堺市	26例)
③手足口病	219例(堺市	14例)
④咽頭結膜熱	105例(堺市	7例)
⑤おたふくかぜ	98例(堺市	2例)

府下インフルエンザ定点307医療機関(堺市29)から

インフルエンザ	321例(堺市	31例)
---------	---------	------

大型連休をはさんで、2週分がまとめて報告された。

感染症報告数は4月24日から30日までがその前週より8.1%増の2,770件で、5月1日から7日までが4月24日から30日までの14.4%減の2,372件であった。手足口病に流行の兆しがある。

インフルエンザは府下では4月24日から30日までがその前週より11%減の468例が報告され(堺市では43→30例の30%減)、報告定点あたり1.5であった。5月1日から7日までが単純には31%減の321例になった(堺市で30例→31例)。報告定点あたり1.0まで減った。

麻疹の報告が4月24日～30日に2例、風疹の報告が5月1日～7日に1例あった。